

農作物技術情報 第5号 水稲

発行日 令和元年 7月 25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://i-agri.net/Index/gate002>」

県全体の出穂期は平年より2日遅い8月5日頃と見込まれます。生育状況や気象変動に応じた栽培管理と病害虫の適期防除を心掛けてください。

- 良好な登熟が行われるように適切な水管理を行いましょう。
- 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、出穂時期に合わせて適期に行いましょう。

→病害虫発生予察情報 発生予報第5号（8月予報）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）
 農作物病害虫防除速報No.9（水稲編-5）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）

- 上位葉での葉いもち発生に注意が必要です。穂いもち予防粒剤を適期に散布するとともに、葉いもち発生を確認したら直ちに茎葉散布による防除を実施しましょう。

→病害虫発生予察情報 発生予報第5号（8月予報）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）

1 水稲の生育状況と出穂期の予測

7月第1半旬は気温・日照時間とも平年並～やや上回りましたが、同第2～3半旬は気温が低く、また日照時間も現在まで少なく推移しています（図1）。

1ヶ月予報（仙台管区気象台，7月25日発表）によると、向こう1か月の気温は高い見込みで、特に期間の前半は気温がかなり高い見込みです。平均気温は高い確率が60%、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されています。

県全体平均の幼穂形成期は、平年並の7月12日（平年差±0）となりましたが、出穂期は平年より2日遅い8月5日頃と見込まれます（表1）。水稲の生育ステージをよく観察して、適期管理に努めましょう。

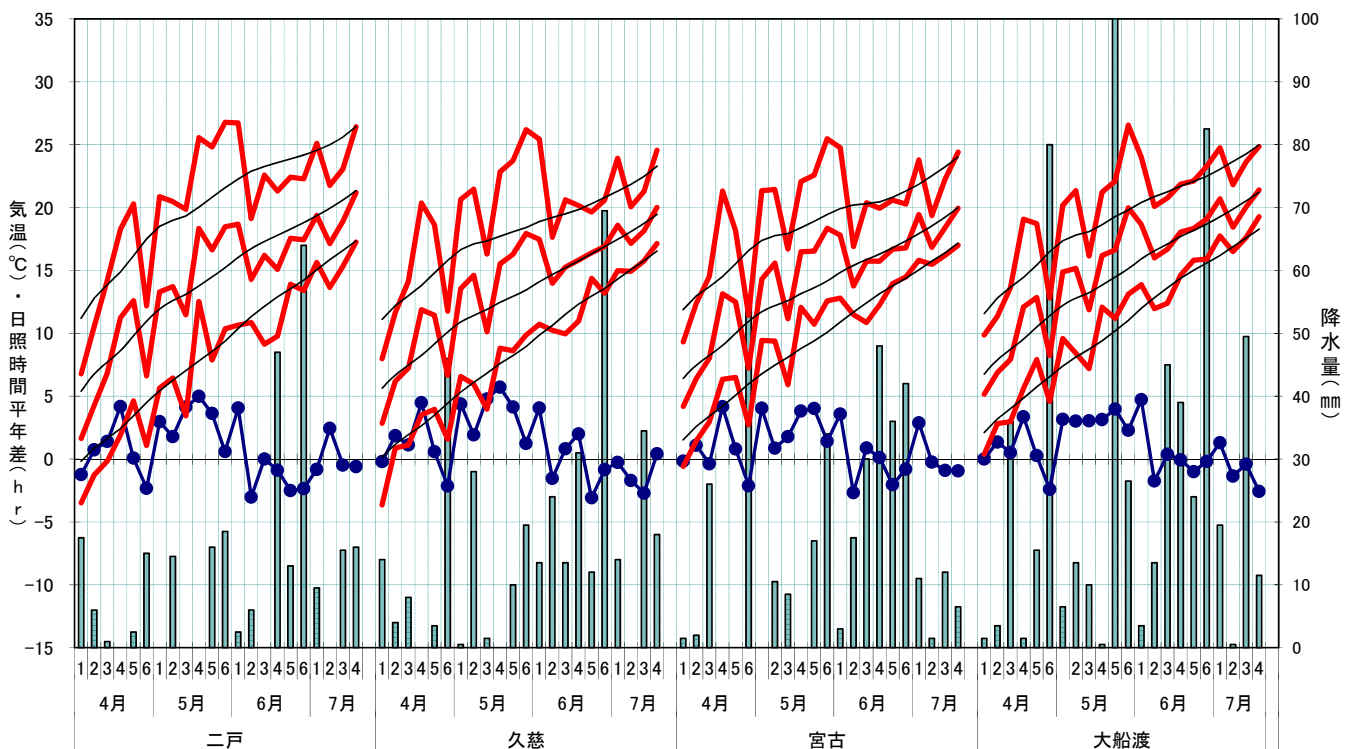


図1-1 主要アメダス地点の気象経過図（沿岸・北部；～7月第4半旬）

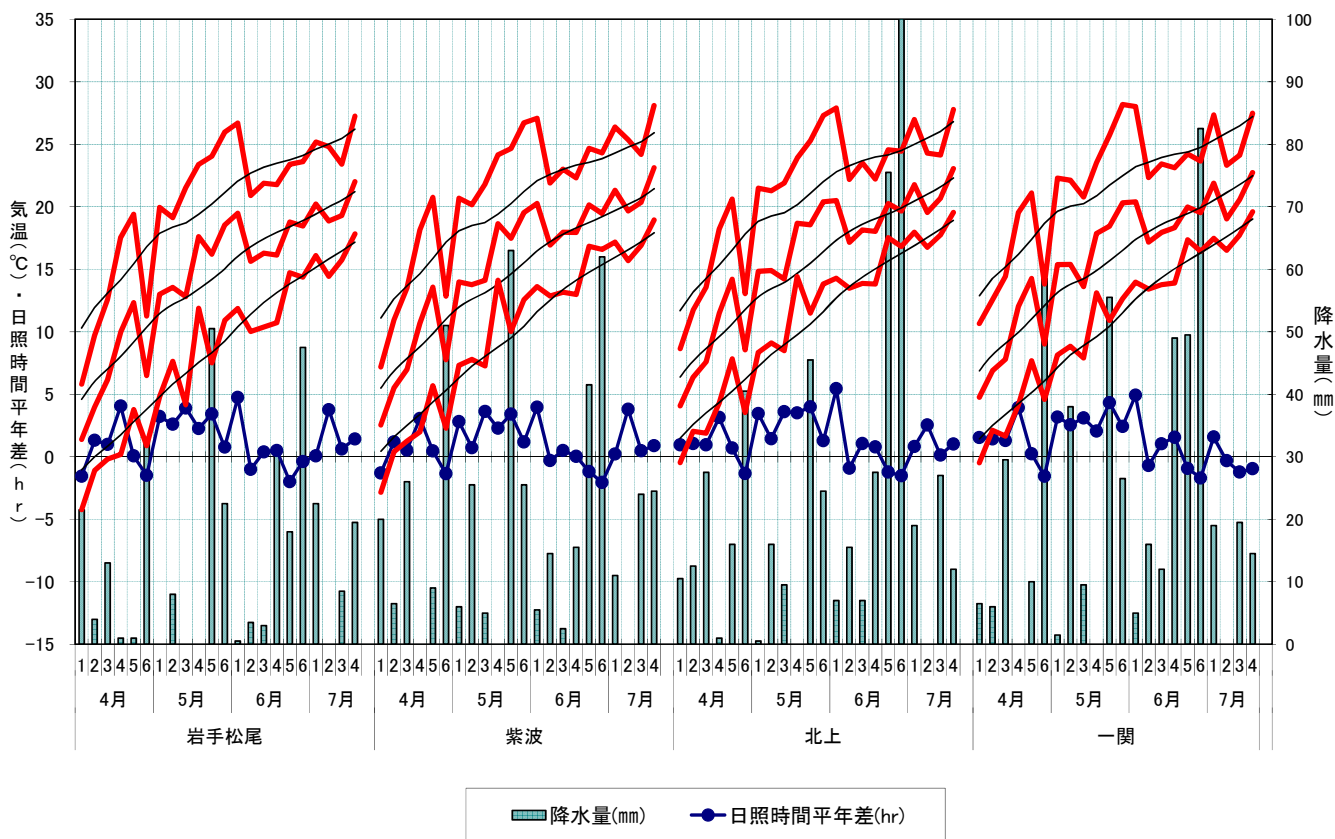


図 1-2 主要アメダス地点の気象経過図（内陸部；～7月第4半旬）

表 1 地帯別・品種別の生育ステージ（水稻生育診断圃：20地点、のべ34品種）

地帯名	幼穂形成期		減数分裂期		出穂期	
	本年(実測) (月/日)	平年 (月/日)	本年(予測) (月/日)	平年 (月/日)	本年(予測) (月/日)	平年 (月/日)
北上川上流	7/12	7/13	7/25	7/26	8/4	8/4
北上川下流	7/11	7/11	7/22	7/22	8/4	8/3
東 部	7/12	7/11	7/24	7/23	8/7	8/4
北 部	7/14	7/12	7/26	7/24	8/5	8/4
全 県	7/12	7/12	7/23	7/23	8/5	8/3
いわてっこ	7/13	7/11	7/25	7/23	8/4	8/4
あきたこまち	7/12	7/12	7/24	7/24	8/4	8/3
銀河のしずく	7/12	7/13	7/21	7/23	8/8	8/4
どんびしゃり	7/11	7/10	7/22	7/21	8/7	8/2
ひとめぼれ	7/11	7/11	7/25	7/25	8/6	8/5
金色の風	7/11	7/11	7/22	7/22	8/4	8/2

注1：平年値は原則、平成26年から30年までの平均値（「銀河のしずく」は同28～30年、「金色の風」は同29～30年の平均）。

注2：予測値

- ・ 減数分裂期：幼穂形成期の実測値に、平年の幼穂形成期～減数分裂期の日数を加えた日。
- ・ 出穂期：発育指数（DVI）を用いた予測式による推定（気象データは各生育診断圃の最寄のアメダス地点の日平均気温（7/21までの現況値及び7/22以降の平年値）

2 登熟を低下させない水管理

気象の変化に的確に対応し、登熟を低下させない水管理を心掛けましょう。

(1) 出穂後の水管理

出穂・開花期間中は水を多く必要とする時期です。土壌水分が不足しないようにしてください。開花終了後は間断灌がいを行い、田面が濡れた状態を維持しながら、根の活力を保つよう管理してください。

(2) 気温の高い日が続く場合の水管理（おおむね日中30℃以上、夜間23℃以上の日）

穂揃い後、登熟初期にかけて気温が30℃以上で夜温も高い場合は、水稻の登熟不良や玄米品質の低下（白未熟粒の発生）を招く恐れが高くなりますので、常時湛水とせず間断灌がいを行い、根の活力維持と地温の低下に努めてください。

なお、農業用ダム等で貯水量が不足しそうな場合には、地元の土地改良区等と協議のうえ、効率的に水管理を実施してください。

(3) 落水時期

近年、地耐力を高めて収穫作業を容易にするため、早期から落水して田面が乾きすぎている圃場がみられます。

早期に落水して田面が乾くと、腹白粒の増加や玄米千粒重の低下、強制登熟による胴割れ米等の発生要因となりますので、以下を目安に落水管理を行ってください。

- ・排水が悪く地下水水位が高い水田・・・出穂後30～35日頃
- ・排水が良い水田・・・・・・・・・・・・出穂後35～40日頃

3 病害虫防除対策

(1) 斑点米カメムシ類（斑点米の原因となるカスミカメムシ類）

斑点米カメムシ類の発生時期（加害時期）は「並」・発生量は「やや多」と予想されます。

〔病害虫発生予察情報 発生予報第5号（8月予報）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）〕

〔農作物病害虫防除速報No.9（水稻編・5）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）〕

ア 薬剤防除

水田周辺に牧草地などの斑点米カメムシ類の発生源がある場合や、例年斑点米の発生が多い場合は、畦畔を含めて薬剤防除を行ってください。また、本年は本田内で増殖源となるイヌホタルイの残草が多いため、必要な場合は追加防除も検討してください。

(ア) 粉剤・乳剤を使用する場合

- ◆ 基本防除・・・穂揃い7日後に1回防除
- ◆ 多発条件・・・穂揃い7日後と14日後の2回防除
- ・水田付近に出穂開花中のイネ科植物（特にイタリアンライグラス）を含んだ牧草地、雑草の繁茂地等があり、斑点米カメムシ類の発生密度が高いところ。
- ・水田内にノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草が多発しているところ。
- ・割れ粃の多い品種（あきたこまち等）。

(イ) 粒剤を使用する場合（※斑点米カメムシ類の発生密度や水田雑草が多い水田では使用しない）

- ◆ 穂揃期～穂揃い7日後
- ・湛水状態で均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち落水やかけ流しはしない。

イ 耕種的防除

水稻出穂期以降に畦畔の草刈りを行う場合は、穂揃い1週間後の薬剤散布後、おおむね1週間以内（残効期間内）に行ってください。

【穂揃い7日後とは】

- ・穂の先端が止葉葉鞘の先端を押し開き、少しでも抽出した状態を“出穂”といいます。
- ・水田内で写真1のような茎が概ね40～50%見られる状態を「出穂期（盛期）」、80～90%見られる状態を「穂揃期」といいます。
- ・通常、「出穂期」から「穂揃期」までは2～3日程度かかりますので、「穂揃い7日後」とは出穂期から概ね10日後です。



このような穂が40～50%見られる状態を「出穂期」といいます

写真1 出穂のようす

★ミツバチへの危害防止対策★

養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する場合は、養蜂家と協議のうえ、散布時期を事前に知らせるなど、ミツバチへの危害防止を徹底してください。水田周辺にミツバチの巣箱がある時は、巣箱を安全な場所に移動してもらってから薬剤散布を行ってください。薬剤散布する際は、農薬容器のラベルをよく読み、周辺への飛散防止に努めましょう。

(2) 穂いもち

いもち病の発生量は「並」と予想されます。

〔病害虫発生予察情報 発生予報第5号（8月予報）（県病害虫防除所 令和元年7月25日発行）〕

7月下旬の葉いもちの発生は平年より少ないですが、平年に比べ葉色が濃く、また日照時間が少ないため、イネのいもち病への感受性は高まっているものと予想されます。

県内一円でいもち病の感染好適条件が繰り返し発生しており、今後、**広域的な発生にいたる可能性もあることから**、圃場のこまめな観察により、早期発見に努めてください。

ア 穂いもち予防剤を使用した場合

上位葉で葉いもちが多発しているところ、出穂後に降雨が続いたり、低温等で出穂～登熟期間が長引く場合には、出穂直前～穂揃い1週間後まで7～10日間隔で茎葉散布による追加防除を実施します。

イ 茎葉散布する場合（穂いもち予防剤を使用していない場合）

出穂直前および穂揃期の2回防除を徹底します。

なお、葉いもち多発時や低温等で出穂から登熟期間が長引く場合は、出穂直前～穂揃い1週間後まで7～10日間隔で追加防除を実施します。

4 異品種混入の防止対策

現在、解析技術の向上により一粒の米からでも品種の判定ができます。

異品種が混入すると、品種名の表示ができず、JAS法表示違反となり産地全体のイメージダウンを招きます。産地の信頼確保のためにも異品種の混入を防ぎましょう。

(1) 出穂期間中の防止対策

出穂が極端に早い、遅い株は異品種の恐れがあります。株ごと抜き取ってください。

(2) 収穫、乾燥、調製時の防止対策

機械や施設内には、前年に収穫した籾等が残っている場合があります。収穫が始まるまでに、余裕を持って機械や施設の点検・清掃を行ってください。

5 直播栽培（鉄コーティング湛水直播栽培）の本田管理

直播栽培の出芽後の本田管理作業は、基本的には移植栽培に準じますが、出穂期や成熟期などの生育ステージが移植栽培より10日～2週間程度遅くなるため、圃場を十分観察し、今後は、病害虫の発生（特にいもち病・斑点米カメムシ類）に注意します。

次号は8月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。